

●向井さんは何よりも土づくりを大切にしています。土の保水力を高めていたことで、
 昨年干ばつ時も大きく取量が減ることはなかったそうです。



は経営に関する事務作業や農業機械のメンテナンスなどを行うことができます。自分自身の時間も確保でき、ゆとりを持てるようになりました」

この春から奥様が農作業を手伝うようになったことも、良い変化を生み出しています。「女性が1人加わっただけで、雰囲気がとても明るくなりました。細かい気遣いもしてくれ、効果は絶大」と、奥様の存在の大きさを実感し、あらためて感謝しているそうです。

これまで外国人技能実習生を受け入れてきた中で痛感したのが、人を育てることの難しさでした。一から農作業を教えるのも単年で辞めてしまうことがあり、なかなか継続雇用につながるということが悩みになっていました。「組織で働いた経験がないため人の育て方がわかっていなかった」と向井さんは振り返ります。その反省を踏まえ、今後は外国人技能実習生の将来設計やキャリアアップなどもサポートしていく方針です。また、要望があれば通年雇用にも対応していきたいと言います。「理想は人を大切に経営。法

人化も視野に入れ、人材を育てていきたいと思えます」

新たな取り組みにも挑戦し次代に農業をつないでいく

ここ数年は、離農する生産者から農地を引き受けるなど、経営面積の拡大を図ってきました。5年前は19ヘクタールほどだった面積が、現在では39ヘクタールと倍増。経営の状況を見ながら、機会があれば今後も増やすことを考えています。

「真面目に農業に取り組み、結果を残していけば、必ず周囲は認めてくれるはずです。地域から信頼されるためにも、受け継いだ農地を大切に育み、次につないでいこうと思います」

収益性を高める観点から、新たな作物の栽培も始めました。5年前からはゴボウとナガイモの栽培を手がけています。新しいことを学びたいという意欲も高く、ゴボウの栽培を始めたときは、芽室町の農家に連絡を取り、栽培のこつを教えてもらったりもしたそうです。

農地を守るといふ信念を貫き、伝統を引き継ぎながら新しいことにも挑戦し続ける向井さん。特別栽培の導入や地元の豚ぶんの活用など、環境への負荷を減らす工夫もしています。その姿から伝わってくるのは、農業や地域への深い愛情です。「夢は子どもたちが農業を継いでくれること。そのためには経営基盤をしっかり築くことが重要です。子育ても大切にしながら、いつか大家族で楽しく農業をしたい、と思っています」



●外国人技能実習生のために、専用の宿舎も建てました。「みんな真面目で仕事熱心。安心して作業を任せられるので、僕の仕事量もストレスも減りました」



●現在はゴボウは札幌の市場に卸しています。「真狩には卸先がないため、メルカリで売ったこともあり。質の良いものを作り、単価を上げたいと思っています」

祖父母や父が育てた農地を守るという使命感

羊蹄山の南の裾野に位置する真狩村では、古くから畑作が盛んに行われてきました。向井翔一さんは加野地区にある向井農園の4代目として、3年前に経営を引き継ぎました。

幼い頃から祖父母が手間暇を惜しまずに農地を肥やし、丁寧に手入れをする姿を見て育った向井さんは、将来は家業を継ぎ、先祖が拓いた農地を守ろう、という思いを自然に抱くようになりました。

高校を卒業後、父親の芳和さんの下で営農のノウハウを身に付けた向井さんは、30歳の時に家業を継承。同じように農家を継ぐことを予定している地元の人たちの中でも、30歳という若さでの経営継承

は珍しかったそうです。

「周りにいる同年代の農家の仲間たちは、親がやってきた農業を継ぐのは当たり前、と考えている人が多いのだと思います。僕も以前はそう思っていました。経営を任されて意識が大きく変わりました。例えば、税金や保険といった経費がかかることなど、農業の実務以外にも学ばなければならぬことがたくさんあるのだと気がつきました」

現在は、小麦、ジャガイモ、テンサイ、小豆の畑作と、ニンジンやタイコンなどの野菜作を組み合わせた複合農業を営んでいます。かつての祖父母の姿に倣い、何よりも重視しているのは土づくり。毎年土壌診断を行って施肥量を見直し、排水性を良くするため、心土破碎やプラウ耕を施すなど、継続的に土壌改良に取り組んで

農業経営の維持や拡大には土づくりも重要な視点

6年ほど前からは、外国人技能実習生の受け入れを始めました。今年度はインドネシア人実習生3名に加え、地元からもフルタイムの従業員を雇用。労働力が強化されたことで、さまざまなメリットがあったと向井さんは言います。「圃場での農作業は実習生や従業員に任せて、自分

●土づくりや作業効率を高めるのに欠かせない大型の農業機械。土づくりは自前で行う以外に、外部委託で心土破碎を行っています。



●今年度からJAようてい青年部の部長を務め、農業や地域を盛り上げる活動にも熱心に取り組む向井さん。冬にはスキー・スノーボードのインストラクターとしても活躍しています。



明日を語ろう！
北の農業人
 KITANO NOUGYOUBITO

北海道農業に限りない愛情を注ぎ、
 たゆまぬ努力を続ける人々があります。
 農業の未来を創造する「北の農業人」の
 情熱や取り組みをご紹介します。

●多角的な経営で農地を守り、持続可能な農業をめざす

**農地を受け継ぎ、さらに次の世代へ。
 誠実な土づくりと先を読む戦略性で
 経営基盤の強化に取り組む。**

「真狩村」
 向井農園
 向井翔一さん

